

43 保護者を対象とした、発達障害に関する勉強会への取り組み

病院 第二機能回復訓練部 大畑 秀央、白坂 康俊、渋谷 康則、東江 浩美

【はじめに】 第二機能回復訓練部（以下、二訓）では当センターで唯一、センター設立以来発達障害児・者を対象とした取り組みを行なってきた。しかし、これまでに発達障害児・者を持つ保護者に対しては個別での対応はなされていたが、全体への組織的・体系的な取り組みは行なわれていなかった。また最近では定数削減の影響で、発達障害児・者および保護者に対して、十分な個別訓練・指導の頻度を確保することが困難な状況となってきた。そこで二訓では、平成 20 年 2 月から保護者を対象とした発達障害に関する勉強会を主催し実施しており、その現状について報告する。なお、ここでの「発達障害」は「知的障害」も含めた、通常低年齢で発現する脳障害を広く示すこととする。

【勉強会の概要】 **目的：**①保護者に対し発達障害に関する体系的な知識を伝達する ②同じ悩みを持つ保護者同士、およびスタッフ相互の交流の場とする

対象：二訓に外来通院中の発達障害児・者の保護者のうち、訓練担当者が継続的なフォローが必要であると判断した方に、案内を郵送にて送付した（第 1 回は企画から開催までの期間が短かったため、34 名にのみ手渡しで案内した）。全対象者数は 121 名で、発達障害児・者の平均年齢は 10.5 歳、標準偏差は±5.8 歳だった（図 1）。参加者の中心は学齢期の発達障害児の保護者だったが、就学前や 20～40 代の発達障害者を持つ保護者もあり、年齢層は幅広かった（図 2、表 1）。

これまでの開催内容：二訓部員が講師となつて行なう講義形式（第 1, 2, 4 回）と、二訓部員がファシリテーターとなり保護者同士が小グループで意見交換を行なう形式（第 3 回）の二つの形式で開催している（表 1）。共に、会の後半では全体での質疑応答やまとめの時間を設けた。

【結果】 開催ごとにアンケート（無記名）を実施した（表 2）。アンケートの結果、勉強会についての自由記述の意見では、「良かった、勉強になった」という意見が多く、「継続して定期的で開催して欲しい」、「また機会があったら参加したい」、「これまでこのような機会を待ち望んでいた」という意見もあった（図 3、表 3）。講義については「わかりやすかった」という回答が多く得られた（図 4, 5）。アンケートの結果から、会の開催は有意義であり、幼児から成人に渡る幅広い年齢層の発達障害児・者を持つ保護者が、このような機会を必要としていることが窺われた。

【考察・今後の課題】 今回の勉強会の開催結果から、発達障害児・者および保護者は、それぞれのライフステージごとに、個別での支援を必要としていることが推察された。現在、当センターでの発達障害への取り組みに、青年期発達障害者に対する支援事業があるが、発達障害に対しては青年期だけではなく乳幼児期からの連続的支援が必要と考えられる。本年 10 月には発達障害に関する情報提供や啓発活動のために、発達障害情報センターが当センターに開設された。また病院には発達障害診療室が新設され、まずは青年期の発達障害への取り組みを開始したところである。今後は各ライフステージでの直接支援、ならびに関連機関への間接支援をセンター全体での取り組みとして検討することが課題であり、この勉強会もその一翼を担うものと考えられる。

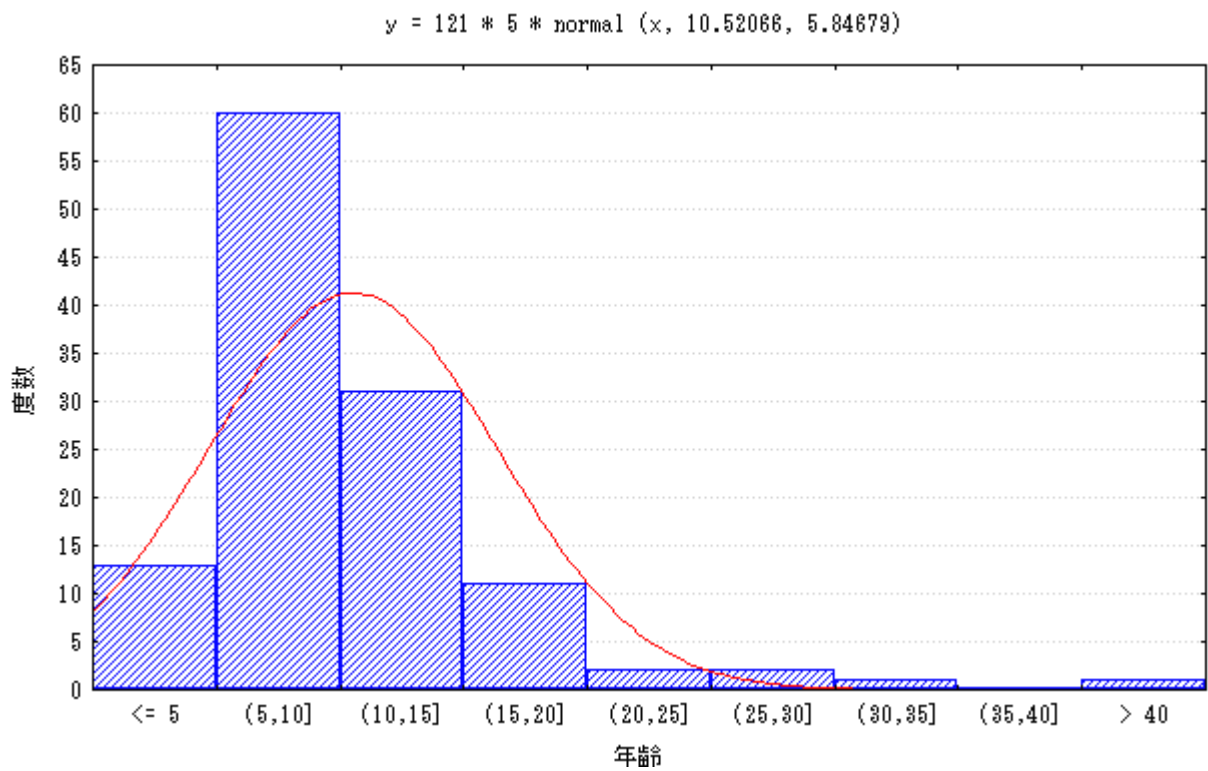


図 1 対象保護者が持つ発達障害児・者の年齢構成

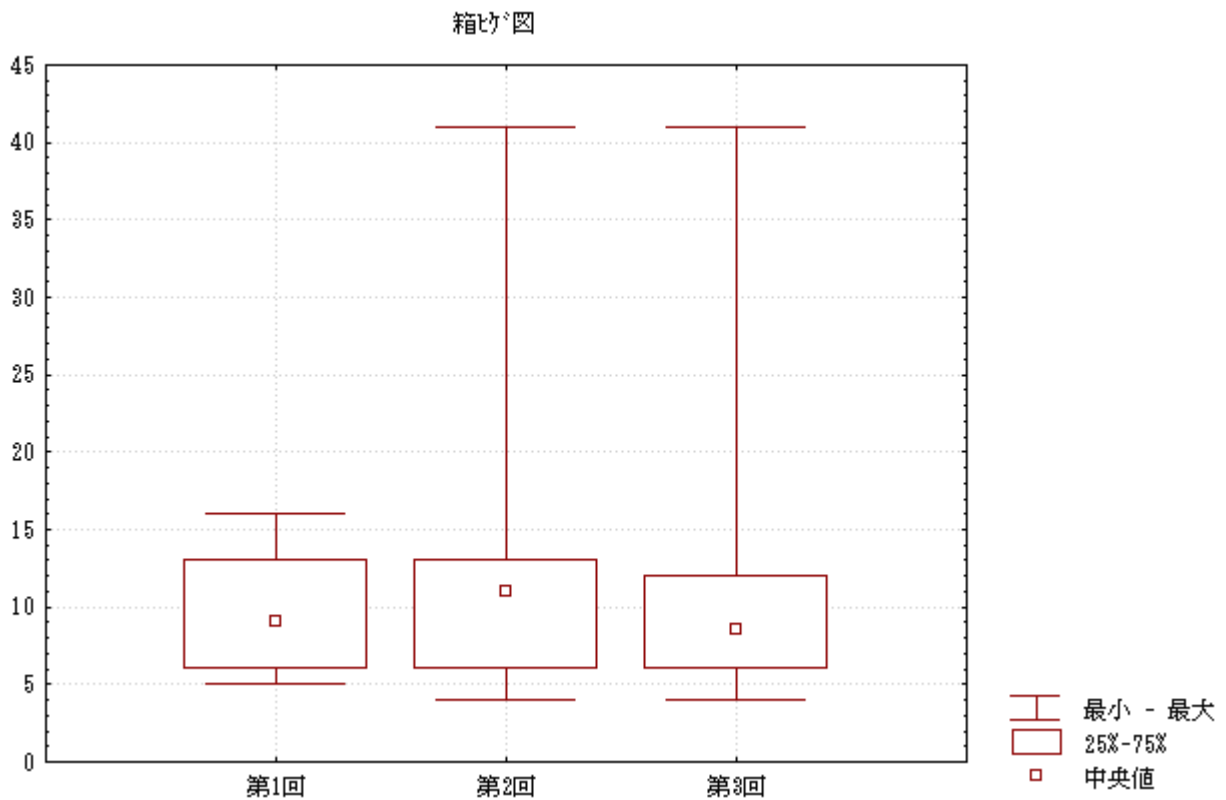


図 2 参加保護者が持つ発達障害児・者の年齢分布

表 1 これまでの開催内容

回	開催年月日	テーマ	講師	参加保護者数 〔 障害児・者の 平均年齢, 標準偏差 〕
1	平成 20 年 2 月 7 日	発達障害児の社会参加について	白坂康俊	13 名 (9.5 歳, ±3.7 歳)
2	平成 20 年 5 月 15 日	言語訓練の役割と限界について	渋谷康則	33 名 (11.4 歳, ±7.1 歳)
3	平成 20 年 8 月 21 日	保護者同士の意見交換会		16 名 (10.7 歳, ±8.2 歳)
4	平成 20 年 11 月 27 日 (開催予定)	会話の発達について	東江浩美	

表 2 アンケートの回収数

回	回収数 (率)
1	10 件 (76.9%)
2	18 件 (54.5%)
3	12 件 (75.0%)
計	40 件 (64.5%)

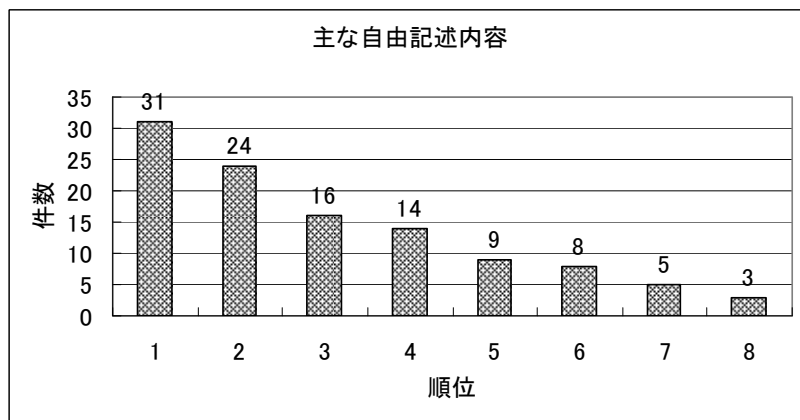


図 3 主な自由記述内容の件数 (表 3 参照)

表 3 主な自由記述内容

順位	自由記述内容	件数
1	良かった、わかりやすかった、勉強になった等	31 (77.5%)
2	勉強会に関する要望 (時間、内容等)	24 (60%)
3	悩み、抱負等	16 (40%)
4	開催継続、参加継続希望	14 (35%)
5	感謝、ありがたい等	9 (22.5%)
6	がんばろうと思った、励みになった等	8 (20%)
7	このような会を望んでいた、もっと早くあれば良かった等	5 (12.5%)
8	訓練に関する要望	3 (7.5%)

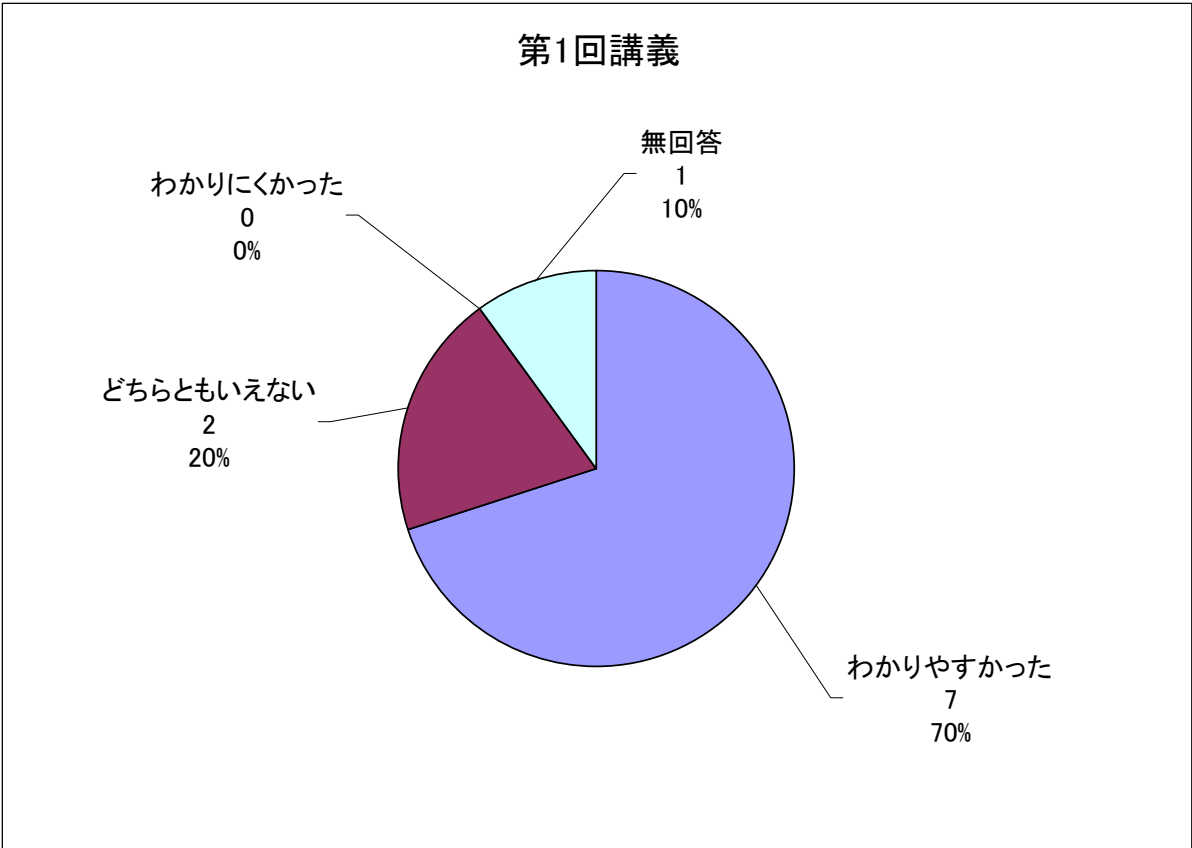


図 4 第1回講義アンケート結果

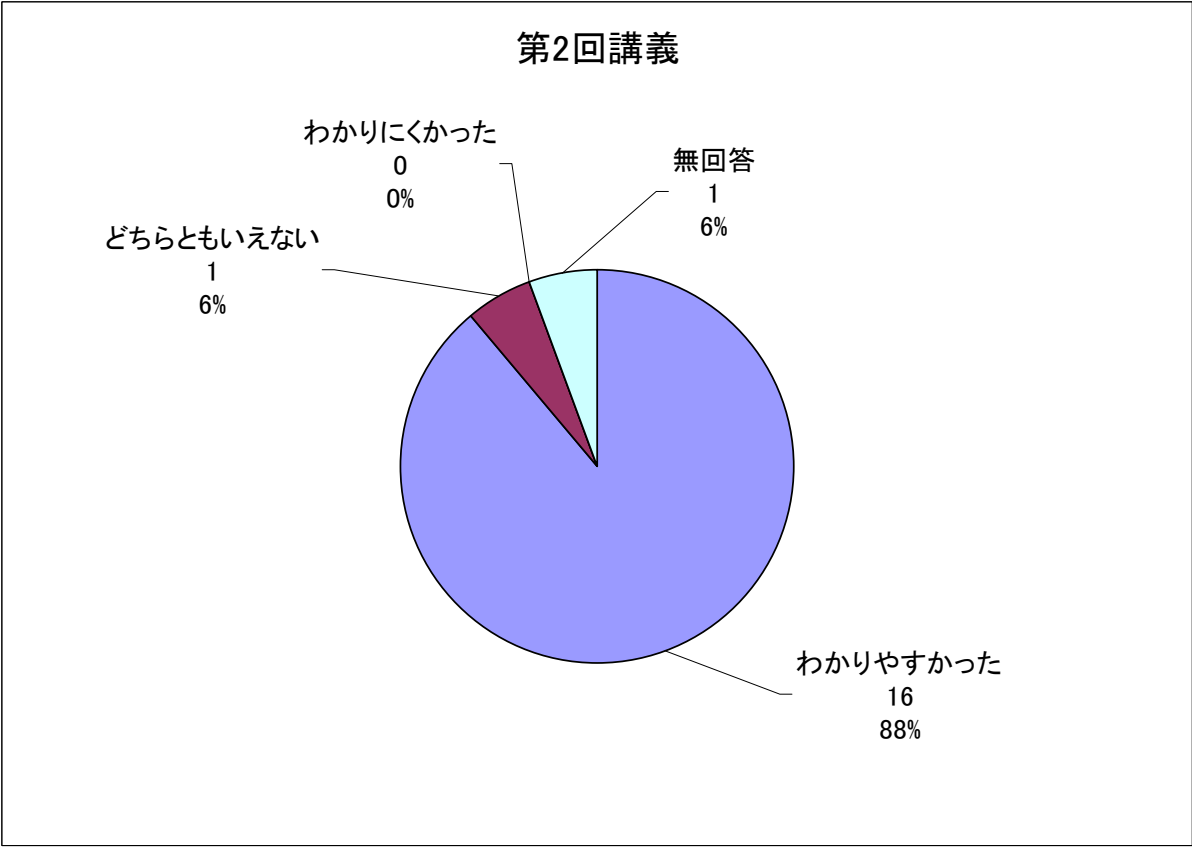


図 5 第2回講義アンケート結果